

希 望

7月・8月号

No. 453



2022年7月25日

知的障害者育成会 高槻手をつなぐ親の会

発行責任者 硯 啓

団体事務所 TEL 072(672)0672

2023年「大阪知的障害者福祉大会」実施に向けて思うこと

知的障害者を取り巻く福祉サービスや環境が大きく変化する中、来る2023年には高槻市において「大阪知的障害者福祉大会」が開催される予定です。私たち「手をつなぐ親の会」も、育成会と協力して取り組みます。

知的障害者は、日常生活に困難があっても、多くの場合ひとりでは福祉サービス等を十分に活用できず、家族や支援者頼みになりがちではないでしょうか。

厚労省は「意思決定支援ガイドライン」を地方自治体、障害者施設、支援機関等に周知を図っています。障害者本人が、現在から将来にわたってどのような生活を望むのか、ニーズを引き出し、サービス等利用計画を作成します。適宜、モニタリングを行い、実行されているかどうか、本人をまじえ確認し、至らない部分は見直し、本人の想いを実現できる環境づくりが必要です。

2022年4月に新たにスタートした「第4次高槻市地域福祉計画・地域福祉活動計画」では、安心して暮らせる自治と共生のまちづくり、また「第6期障がい福祉計画」及び「第2期障がい児福祉計画」では今後の福祉サービスと児童福祉の方向性等を定めています。

「やまゆり園」での殺傷事件で、大規模入所施設の問題点がクローズアップされた後でも、入所施設待機者は全国で知的障害者の約18000人にも上るそうです。

また、知的・発達障害者などのうち40～64歳で引きこもり状態にある人は全国で約61万人にも上るといわれています。本来なら入所施設や親元ではなく、当たり前の一の大人として地域社会で暮らしていけることが望ましいのにもかかわらず、きわめて困難な現実があります。入所施設自体の是非や良し悪しではなく、そこでしか生きていけない、選択肢がない人がまだまだ多いということが問題ではないでしょうか。

私自身も、障害のある息子とともに「親の会」で自立と社会参加を目指して長年活動してきました。80歳代の親が50歳代の子を世話するという、いわゆる「8050」（はちまる・ごまる）問題が社会問題となって久しく、身につまされます。私達のように「老障介護」となると更に深刻です。会員の多くがそのような状況にさしかかっています。「親亡き後」もわが子が地域で支援を受け、幸せに暮らせる社会となることを私達は切に願います。高槻市において

も、親が元気なうちにサポート態勢ができるよう取り組んでいただきたいと思います。

- ★障害者が希望する地域生活を実現する
- ★社会の変化等に伴う障害児者のニーズへのきめ細かな対応
- ★持続可能で質の高い福祉サービスの実現

障害者総合支援法において、一人暮らしの訓練の場としてのグループホームを新設する案があるようですが、現状でも支援者不足は深刻で、実際には十分な対応ができるとは思えません。グループホームも多様なニーズに応えられるよう、見直していくことは必要ですが、基本的には長く暮らせる住居であるべきです。「訓練」の内容はどうか、「訓練」を経たとしても、障害者が本当に一人でも暮らせるような支援ができるでしょうか。また、既存のホームに波及する影響も心配です。

知的障害者の基本的人権が守られ、社会の一員として当たり前で暮らせることを望みます。

知的障害者福祉大会では、皆さんはどんな内容を希望されますか。障害者福祉の今後について、大阪府や高槻市にじっくり聞いてみたいと私自身は思っています。皆さんの「こんな話が聴きたい」「本人たちが楽しめる内容を」など、アイデアやご意見をぜひお寄せください。 (硯)

月例会

6月20と7月11日に月例会をしました。対市交渉に提出する市への要望書作りに向けた、皆さんからの様々な困りごとや、こうしてほしい事、気のついた事など貴重な意見を色々出してもらいました。今後これらを参考にまとめて要望書を完成させます。

☆8月はお休みです。次回は9月12日（月）ゆうあいセンター4F研修室で10時からです。是非ご参加ください。

月例会担当樋口

ほっこりタイム

6月3日のほっこりタイムは、初めて参加してくださった方もいて、12名と盛況でした。「地域の小学校か支援学校か迷っている」、「放課後等デイサービスを利用しているが、ほかの所に変わりたいと思っている」、「まだ親が散髪しているが、障害があっても利用できる場所を知りたい」等々話は尽きませんでした。

7月1日は、数年ぶりに参加された方から、他県のグループホームを見学する機会があったが、高槻の現状を知りたいと質問があり、老舗の社会福祉法人だけでなく、新しい事業者が参入している現状や、今論議されている「通過型グループホーム」についてもお話させていただきました。就学についての説明会をまた開催してほしいというご意見もいただきましたので、取り組んでいきたいと思っています。
(和田み)

ほっこりタイム予定 お気軽にどうぞご参加ください。

8月5日（金）10：30～12：30 城内公民館（2階集会室）

9月2日（金）10：30～12：30

ゆうあいセンター 4階 会議室①

ボウリング同好会

日時 毎月第4日曜日 10時スタート（変更の場合あり）

場所 ラウンドワン高槻店（170号線「辻子」交差点前）

料金 貸し靴代390円 ゲーム代2ゲーム（8名以上で1380円）
※親の会の会員及び賛助会員には親の会よりゲーム代780円補助）
※障害者手帳持参で団体扱いは100円引きになります。
※メンバー表を作成してFaxするため3日前の木曜日までにご一報ください。

ガーターなしレーンで2ゲーム楽しんでいます。ぜひ一緒に楽しみましょう！

今後の予定	8月28日日曜日 9月18日日曜日（今回に限り）
-------	-----------------------------

担当 城

絵画教室

日時	毎月第1日曜日	10時より
----	---------	-------

場所	ゆうあいセンター4F 会議室
----	----------------

会費	会員は無料	一般は月/200円
----	-------	-----------

※作品はゆうあいセンター1Fに展示しています。

次回は9月4日（日）です。

担当 城

ミュージックケア

7月16日に初めて生涯学習センター地下リハーサル室でやりました。今後もしばらくは生涯学習センター地下リハーサル室でやります。

次回は8月27日（土）です。ミュージックケアの様子はホームページ

（<https://takatsuki-oyanokai.jp>）に掲載されています是非ご覧ください

※生涯学習センター使用時、市役所の駐車場を利用させていただくと帰りに窓口で療育手帳を提示していただくと半額になります。

担当 加地

加地英貴氏の色鉛筆アートの活動報告

親の会会員の加地佐智代さんの息子英貴さんの色鉛筆アートの活動報告の原稿をいただきました。活き活きと、自分らしく活動をしている様子を紹介させていただきます。

7月1日（金）から7月16日（土）東京目黒N&Aアートサイトギャラリーで、障がいの方9人のグループ展に展示していただいています。検索してご覧ください。主催者のキュレーター南條史生先生とディレクターの杉本志乃さんが、呼んでくださいました。7月1日（金）夕方よりセレモニーが始まり、お客様からの質問に母がお答えし、「色鉛筆！アクリルかと思いました。」「これ色鉛筆なの？」と皆さんびっくりされます。色の組み合わせを「いいですね」「きれいです」「澄みきった色」「鮮やかな色」と褒めてくださり、英貴と絵と一緒に写真を撮ってくださいます。英貴はいつものポーズです。（笑）さっそくコレクター？の方が購入して下さいました。有難いことです。お陰様で、次回の展示会の交通費、宿泊費、色鉛筆、画板の費用を自分で出すことが出来ます。

母も、東京へ連れて行ってきて親孝行な自閉症の息子です。

これからも応援を宜しくおねがいします。

「本が読みたいねん」続編

希望の11月12月号で、榎田地区の出灰（いずりは）在住で榎田小学校に通う伏見湊君のことを紹介させていただきました。湊君は読み書きに困難があり、本を読んだり字を書いて学習することに工夫が必要です。ITの活用や、本を音読してもらって読書感想文の宿題に取り組んだことを前回は書いていただきました。IT環境の発達や、湊君のような子どもさんたちの合理的配慮のひとつになることが望ましいのですが、実際にはまだまだ課題があるようです。同様のケースが、もしかしたら他のお子さんにもあるかもしれません。

また、榎田という交通事情や福祉サービス環境が市内中心部に比べて何かと不自由な地域での障害のある子どもたちの課題についても、私達も考える必要があるのではないのでしょうか。手をつなぐ親の会の会員さんはもちろん、この会報をご覧ください。すべての方に、知っていただきたいと思い、書いていただきました。

地域内には中学校がなく、バスの通学です。健常のお子さんであっても大変ですが、とりわけ障害のある子どもにとってはどうなのか、考えていただきたいです。住む地域による格差はできる限り解消するよう、行政には取り組んでいただきたいと切に願います。
(堀切きみよ)

以下に湊君の作文を掲載します

前に僕は、字がうまく書けへんから iPad を使って、学校でネットに繋ぐにはどうしたらいいかねー？って云う話をしたんやけど、あれから先生とかがどうしたらいいか考えてくれた。学校で配られてる chromebook のジャムボードって云うサービスを一人でノートとして使うことによって、解決することが出来た。ほんで、話は変わるけど、この春から親の仕事が忙しくなって、学校に車で迎えにこれず、バスで帰らんといけへん事が増えた。日によって予定が変わるのは大変やけど、障害者手帳についてきた市バスの無料パスがあるから、安心して帰ることが出来る。やから、市バスも無料パスも続けてほしい。はい終わりです。

以下は、(母) 裕子さまからの補足です

今年度、湊は6年生になりました。

5年生が終わるころ、小学校最後の1年をどう過ごすか、中学校生活に向けて何が必要になるか、先生方と話し合いました。

もし、iPadでしかノートテイクが出来ないとしたら、iPadの持ち込みやネット環境などの問題を乗り越えないといけなかったので、非常に不安でした。

結局、chromebookのジャムボード(googleの機能)を使うと、これまで湊が使用していたiPadのGoodNotesとほぼ同じようにノートをとることが出来るということを知り、担任の先生が見つけてくださいました。さらに、そのファイルをあらかじめGoogleドライブで先生方と共有し手置くことにより、湊のノートを先生方がいつでも確認できるようにもしてくださいました。これで、長らく課題であったノートテイクとノート提出に関する問題は今のところ、解決しつつあります。同じようなことで困っているお子さんのために、この機能を使ったノートテイクについての情報が広まることを願っています。

通学手段についても、校区の学校に徒歩で通えない檜田の子どもたちにとって、市バスは命綱です。

本来、障害の有無によらず無償で通学できるようにしていただきたいのですが、湊の場合は親の仕事の都合によって交通手段が変更になった場合も、現金を持たせる心配なく市バスを利用できるので、非常にありがたく思っています。市営バスならではの福祉制度は、ぜひこれからも守っていただきたいです。

また、特に中学校進学後は、檜田線の便数の少なさが深刻になるので、子どもたちの声をしっかり聴いていただき、交通部と中学校及び教育委員会とで一層連携を深めていただきたいと切に願っております。

「やまゆり園事件」を忘れない

また、7月26日が巡ってきます。「やまゆり園事件」とは何だったのか、私
だ一人一人に問われているのではないのでしょうか。

7.26施設障害者虐殺 6年目の追悼アクション

2016年7月26日、神奈川県相模原市にある障害者施設で19名もの人々の命が奪われた事件から、今年で6年が
経ちます。

この事件は障害という属性を理由として、人の生命と尊厳を否定し暴力に及んだ、紛れもないヘイトクライムです。現
在も事件で殺された障害者の名前は数名しか公表されず、被害者の尊厳は未だに踏みにじられたままです。しかし、そ
の一方で実行犯の存在ばかりが大きく扱われ、その思想に共感・同意する人々が一定数存在し、それは少なくない状況です。

ヘイトクライムを許さないとはっきり明言できる日本社会であれば、相模原で19名の障害者は殺されなかったのでは
ないでしょうか。ヘイトクライムを許容している社会だから、19名は殺され、実行犯の思想を垂れ流し、差別的な考え
に共鳴する人を作り出すような連鎖がおこってしまっています。

私たちはこのヘイトクライムを許容する日本社会に対して、より広いつながりを持って抗い、改めてヘイトクライムと
は何か、ヘイトクライムを糾すためにはどうすればよいかを共に考え、行動したいと思います。

もうすぐ6回目の7月26日がやってきます。私たちは7月26日を「祈念日」と位置づけ、19名の命が奪われるこ
となく、生きていくことができた社会、差別やヘイトクライムを許容しない社会を目指して、事件を決して許さず、忘れ
ないために声をあげ続けます。この世界にあった19名の人生に想いをはせ、追悼を共にし、そして誰の命も大切にされ
る社会を再建していくことを目標に、今年も追悼アクションを行います。

皆さまにおかれましては、お忙しい時期だと思いますが、ぜひご参加いただけるようお願い申し上げます。

2022.7.26
18:30~
ヨドバシ梅田近辺にて

※献花台を用意しますので、よろしければお花をご持参ください。

※ブラカードやフェイクキャンドル、黒リボンを用意していますが、お持ちの方もぜひご持参願います。

《必ずご確認ください》

- ・参加の際は必ずマスクを着用してください。
- ・コロナウイルス感染予防の観点から約2m程度間隔をあけてのスタンディングにご協力ください。
- ・暑さや急な雨が予想されます。水分補給や雨具の用意をお願いいたします。

726 追悼アクション有志 (@pray4sagamihara/Twitter)